

朝市と漁協婦人部の活性化

鹿屋農林水産事務所

1 目的

東串良漁協女性部は、昭和54年に結成され、現在部員19名で、海岸清掃や地域交流会、先進地視察等を実施し、漁村活性化に努めている。

現在女性部の新たな活動として、水産加工品の開発、鮮魚販売等を計画しており、先ず、東串良町でH10年10月から毎月第4日曜日に開催している朝市での魚介類等販売へ、女性部として参画を検討している。

他地域で活発に朝市を開催し、地域活性化に努めている優良グループとの交流を図り、今後の活動の活性化を促す。

2 事業内容

- | | |
|-----------|-----------------------------|
| (1) 交流日程 | 平成15年3月7日(金)～8日(土) ※8日交流実施 |
| (2) 交流参加者 | 東串良漁協女性部10名 |
| (3) 交流研修先 | 芦北漁業協同組合 朝市部会(芦北郡芦北町計石2963) |
| (4) 引率者 | 鹿屋農林水産事務所 技術主査 川口吉徳 |

3 交流内容

(1) 組織

芦北漁協では、平成5年8月に発足した芦北町農林漁業活性化委員会の漁業部会が同年10月に「あしきた魚の朝市」を開始し、現在、月2回(第2土曜日、第4日曜日)開催している。

部会は、部会加入費、年会費、1回の参加費と町の助成により運営(PR費用、年4回のイベント、研修会等を実施)され、漁協組合員の打瀬網、ゴチ網、他沿岸漁業者に加え、地域加工業者、JAあしきた婦人部(生鮮野菜)の23業者で組織されている。

(2) 朝市の状況

魚の値段は、朝市開催前に協議し、漁協市場の相場に1～2%の上乗せで販売している。朝6時から開催するが、1回あたり200～300人の集客で、通常15～30分で完売する。

販売は、各参加者(船、加工業者等)毎に自分の魚(品物)を自ら売り、個々の収入となり、1回あたり10店舗(業者)が出店し、13年は年23回開催し、売上げは全体で4,482千円。

(3) 課題

新鮮な魚介類販売を心がけているが、水揚げの減少や、時化等で開催日に安定した出品ができないことがある。また、当初、第2、4日曜日に開催していたが、平成11年より第2日曜日の開催を土曜日(県の一斉休漁日)に変更したため、売上げ、集客数の減少が見られ、新たな展開を模索している。

4 考察

現在、東串良町で開催している朝市では、漁協に水揚げされた魚を、漁協として販売している。お客のために、水揚げがなければ無理に魚を集めたり、漁協職員が当番制で販売しているため、個々への負担が生じ、活動が滞り、集客数も減少している。

それに対し、芦北漁協朝市は、漁業者単位で、前々日、前日に自分が漁獲した物だけ（漁がなければ朝市は中止）を、鮮度等商品に自信を持って自ら販売しており、直接消費者の反応を得られるとともに、本人が売っただけ収入が上がる喜びもあるようである。漁獲した者が自信を持って販売することで、消費者への信頼が得られ、集客も安定し、また、売上げが個人への収入となるため、漁業者、漁協への負担も少なく、活動も持続している。

朝市の目的の魚食普及、消費拡大の観点からも、継続して行くことが大切であり、その為には、個々に大きな負担が生じることを避ける必要がある。販売においても、芦北漁協朝市では、婦人の方が一緒に販売を行い、料理方法の紹介等消費者への細やかな気配りを行ったり、漁村加工品を鮮魚と併せて販売するなど、積極的に参画している。

今後、東串良漁協においても運営方法とともに、婦人の参画を検討してゆく必要がある。

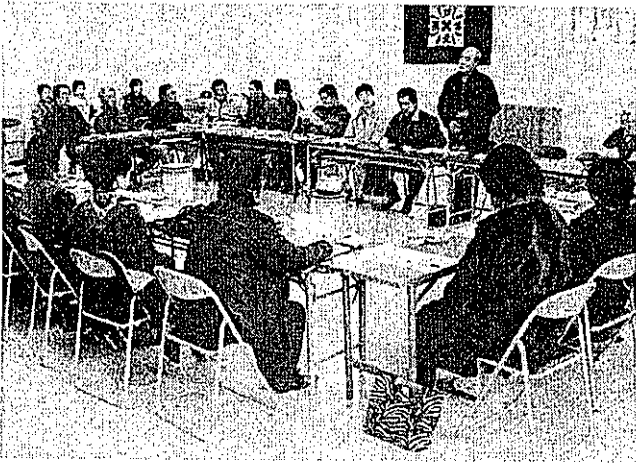


図1 交流会
芦北漁協朝市部会と東串良漁協女性部



図2 視察先（芦北漁協及び朝市看板）

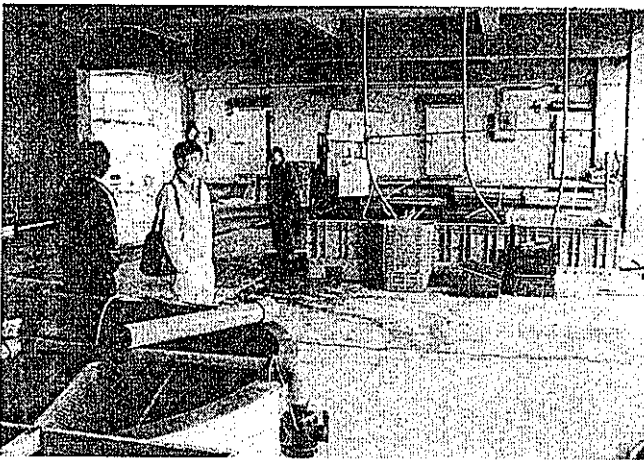


図3 朝市会場（魚市場）

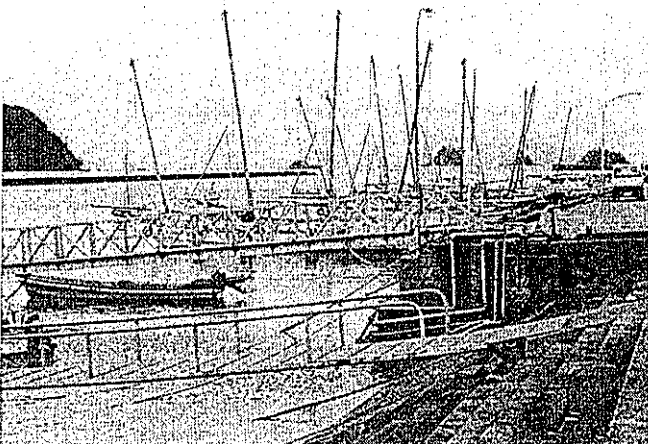


図4 漁港